

公益社団法人日本ビリヤード協会平成 27 年度事業報告

1 組織

公益移行に関して

昨年 2 月 21 日、内閣府より諮問が終了したとの連絡をいただき、2 月 28 日付で答申をいただきました。これにより本年度 4 月 1 日より当会は公益社団法人日本ビリヤード協会としてスタートしました。

27 年度中には NBA 本部が日本体協に加盟する予定でしたが、必要な内規のないものも多く今年度中には完了しませんでした。

資格認定、指導員制度、審判員制度の明文化が必要となります。システムが稼働するまでに数年を要しますが、制度だけは明文化されている必要があります。現在スリークッションの審判員制度があり公益申請の書類としても提出しました。スポーツ団体として必須の事業です。

㈱BAB ジャパン(キューズ)が検定の公認を申し出てきました。この検定の検定員を資格制度に発展させようと計画しています。他の事業は遂行できませんでした。

2 普及事業

協会のアピールとしては適切な運動量と、頭を使うことによる認知症防止、コミュニケーション等があります。現在増えている高級高齢者施設では、入居者のニーズに応える姿勢をとっており、その中にビリヤードも入っているようでいくつかの問い合わせもありました。講師派遣依頼がくればできるだけ協力お願いします。公共の高齢者施設には全撞工の協力でテーブル貸与・贈呈を続けてゆきます。

若年層への普及も重要です。児童館などからオファーが来れば極力受けるようにして下さい。いずれも、一度二度はボランティアでも、度重なるようでしたら本部にご相談ください。多少の補助はできますが、基本は支部としてもやらなければならない事業です。協会所有のミニテーブルは、引っ越し便で送ることができますので、各地のイベントで使うことは可能です。本年は長崎に 1 万円弱で送ることができました。東京・長崎で 1 万円ならば全国的に 1 万円以内と思われます。

学校対抗・学生選手権

競技会ではありますが、学生層への普及のため、学校対抗選手権も継続します。かな

りの事業支出を伴いますが絶対に続けてゆかなければならない大会といえます
昨年度より全日本学生選手権を開催しました。フリーエントリーで既設会場で開催
しました。来年度以降は協会の最も力を入れる大会のひとつとしてゆきたいと思いま
す。

例年どおり学校対抗、学生選手権の開催、体育の日イベント参加等の事業を行いま
した。

3 選手強化

2017年、中華台北で開催されるユニバーシアードにビリヤードがデモンストレーション
種目として採用されました。ジュニアオリンピックカップ・学生選手権と連携を図り
ながら 2017年に備えます。今後の国際大会は下記のとおりですが、ビリヤードの採用
はユニバーシアード以外は決定していません。

2017 アジアインドア&マーシャルアーツゲームズ トルクメニスタン

2019 アジア大会 ベトナム・・・ビリヤードが盛んなので可能性はある

ベトナムが経済の関係でリタイヤ。インドネシアに決定するも可能性は薄い

2017 東アジア大会 中止→発展的解消→2019年アジアユースゲームズとなる

2017 ユニバーシアード 中華台北・・・デモンストレーション競技として採用

2017 ワールドゲームズ ポーランド・・・4回連続で採用されているので可能性大

特に進展なしです。まだ情報が出る時期ではないと思われます。

4 ジュニア

ここ数年日本のジュニアクラスは層・レベルと共にかなり充実していましたが、その
充実したメンバーが徐々にジュニアを卒業し、世代交代を迎えています。このクラス
は常に新メンバーが登場していないといけないのですが、全国的に選手層が薄くなっ
ているのが現状です。タレント発掘も協会の重要な仕事であり、また、ジュニアの充
実はそのまま普及にもつながります。またジュニア・学生層への普及は体協加盟や地
区教育委員会とのつながりが有効な手段であり、組織の発展ともつながりをもってき
ます。

ここ1～2年で多少裾野が広がりました。それにつれレベルも少し復活した実感が
あります。また小・中学生が増加したことは明るい前途です。

5 国体記念大会

国体は平成 29 年愛媛まで参加が決定しています。しかし福井・茨城・鹿児島・三重と、県単位で見ると若干組織力の弱い(支部の組織力が弱いというわけではない)ところが続き、早々に活動しなければなりません。

残念ながら福井のデモスポは採用されませんでした。しかし嘆願は今後も続けてゆきます。福井の記念大会は規模を縮小して開催することが決定しています。

6 大会開催・・・トーナメントスケジュールによる。

7 大会派遣・・・例年通り世界選手権に代表を派遣。

8 各種委員会

アンチ・ドーピング委員会

実際に検査対象となるトップ選手の属する JPBA と JPBF、そして NBA 本部で構成した委員会で活動しています。来年度は 4 大会で 8 検体の検査を予定しています。それにとまなう TOTO の助成は申請済みです。

全日本スリーで男子 2 検体、全日本女子スリーで 2 検体、ジャパンオープンで男女各 2 検体、合計 8 検体の検査をして全員陰性でした。

CS 委員会

実際に回転しているシステムにつき、今までは急激に大きく変更することは不可能でしたが、現状は過去最低ラインであり、一新するべき時期がきています。CS 委員会ではプラスチックカードの導入、有効期限を年末に変更、付加価値としてクラスを色分けする等の方針で現在企画をまとめています。

(株)しゅくみねっとと契約し、ウェブ上で CS カードを登録できるようにしました。16 年ぶりの大改革です。またこのシステムは大会やイベントにも活用でき、非常に大きな可能性を秘めています。

助成金審査委員会・選手選考委員会

必要に応じ開催します。

必要がなかったので活動履歴はありません。

協力金委員会

ほぼ正常に回転しています。システム自体は問題ありません。

ジュニア助成、会議交通費助成、報奨金を支出しました。

ルールブック委員会

ルールブック完成後ほぼ解散状態でしたが、ポケット・キャロム・スヌーカーとも経年による見直しをします。本年度ポケットビリヤードのルールを一新しました。来年度はスヌーカーとキャロムで若干の変更をします。製本の予定はありません。

年度内にはできませんでした。

普及指導委員会

普及指導委員会を設置しました。当面は2017年ユニバーシアードと関連をつけ高校を中心に、学校・児童館・高齢者施設にビリヤードを紹介する活動をします。

イベント参加、小学校にミニテーブル貸与、児童館訪問等で目立った進捗はありません。

9 震災募金に関して

震災後4年が経過したため、事業計画の筆頭からははずしますが、メンテナンス費用がかからないので、期限を区切らず続けます。一応5年一区切りということで2016年3月で終了する予定です。

2016年3月31日を持って終了しました。5年間の総額は929,735円です。全額赤字に送金しました。

10 オリンピックに関して

現時点で組織委員会ないし検討委員会の連絡待ちですが情報がありません。どのような形で選考するかも公表されていませんが、いずれ何らかの形でヒアリングがあると思われます。臨機応変に対処します。

パラリンピックに関しては車椅子の全国組織が必要ということですが、残念ながら日本車椅子ビリヤード協会は大きな組織ではありません。しかしNBAの支部長を車椅子協会の支部長に任命することでNBAの組織をそのまま使うことができます。

残念ながら選考に残ることはできませんでしたが、WCBSが組織をあげて、日本を中心に世界と密に行動できたことは大きな成果です。